寒冷期に向けた乳牛の環境整備

いよいよ冬がやってきます。寒冷期になり外気温が下がると、牛舎を閉め切っていませんか？水道の凍結は仕方がないと諦めていませんか？寒冷期も「換気」と「水を飲める環境」は大切です。これらの飼養環境を見直してみませんか？生産性の低下を抑えるために、できるだけお金をかけずにできる工夫事例を紹介します。

冬も新鮮な空気は必要です！

窓や扉を閉め切ることにより、ふん尿からのアンモニア、呼気からの水蒸気や炭酸ガスなどが牛舎内に充満し、牛舎内環境は悪化してしまいます。環境悪化によって、牛の採食量が低下し乳量に影響が出る可能性があります。

人が多少寒さを感じても、窓や扉を開放し、新鮮な空気を牛舎内に入れましょう。また、牛舎内の換気扇をゆっくり回し、空気を入れ替えましょう。

天気が良い日は
扉を開けましょう

はね上げ窓にした事例（凍結しづらく、開閉しやすい）

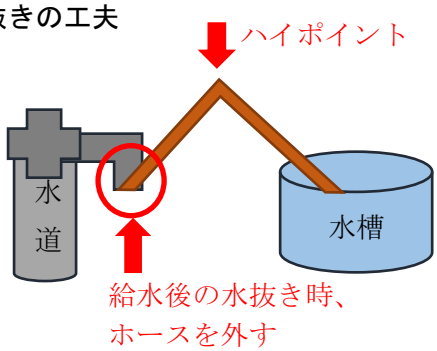
冬も水は重要です！

施設によっては冬になると水道管が凍結するため、水道を止める、熱湯をかけてとかすといった事例が見られます。また、水槽がパドックなどの屋外にあると、ホースなどはさらに凍結しやすくなります。

毎年凍結してしまう施設の場合、電熱線の利用やホースの水抜きを工夫することで凍結しづらくなり、飲水量の確保に繋がります。

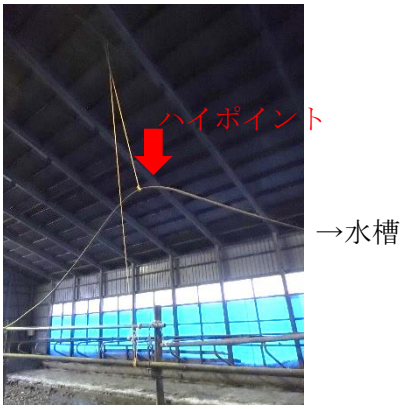
不凍帯をホースに巻き、
電熱線を水槽に入れる

水抜きの工夫



1　水槽に給水した後、水道からホースを抜いてハイポイントをつくり、水を抜きます。

2　再び給水する際に、水道にホースをつなげます。



実際の事例